

2019年度

シラバス

3学年（第1回生）

学校法人 医療創生大学
葵会仙台看護専門学校

2019年度 3学年(1回生)学科進度表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年		チェック欄
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30		30				
		情報処理	1	30		30				
		生命倫理	1	15			15			
		教育学	1	30			30			
		医療英語 I	1	30	30					
		医療英語 II	1	30		30				
	人間と生活・社会の理解	社会学	1	30			30			
		ホスピタリティ論	1	15	15					
		心理学	1	30		30				
		保健体育	1	30			30			
		音楽	1	30	30					
		人間関係論(家族論含む)	1	30	30					
		看護学生生活論	1	30	30					
基礎分野 小計		13	360	135	120	105	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学 I 人体構造・生理学・皮膚と膜、血液	1	30	30					
		人体構造・機能学 II 呼吸器系・循環器系・泌尿器系	1	30	30					
		人体構造・機能学 III 消化器系・内分泌系・骨格系・筋系	1	30	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	人体構造・機能学 IV 中枢・末梢神経、皮膚及び感覚器、生殖系、免疫系	1	30	30					
		生化学	1	30	30					
		ライフステージ栄養学	1	30		30				
		薬理学	1	30		30				
		病理学	1	30	30					
		免疫と病原微生物学	1	30		30				
		病態治療学 I 概論、呼吸器、循環器、腎泌尿器	1	30	30					
		病態治療学 II 消化器、内分泌	1	30		30				
		病態治療学 III 体液調節、皮膚・体温調節、血液・造血器、アレルギー、膠原病、感染症	1	30		30				
		病態治療学 IV 運動、脳神経、神経内科	1	30		30				
		病態治療学 V 耳鼻科、眼科、皮膚科、歯・口腔、放射線療法、緩和終末期ケア、臨床検査	1	30			30			
		病態治療学 VI 外科総論、外科各論、救急法	1	30			30			
	健康支援と社会保障制度	リハビリテーション論	2	45			45			
		総合医療論	1	15	15					
		看護関連法令	1	15						15
		社会保障・社会福祉	1	30					30	
		公衆衛生学	1	30					30	
	専門基礎分野 小計		21	585	195	210	105	0	60	15
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	2	45	45					
		臨床看護総論	1	30		30				
		基礎看護学援助論 I 生活援助技術(環境調整、食指、排泄、活動・休息、清潔・衣生活等)	1	30	30					
		基礎看護学援助論 II 生活援助技術演習(栄養環境、活動・休息、苦痛の緩和等)	1	30	30					
		基礎看護学援助論 III 生活援助技術演習(食事・排泄・清潔・衣生活の援助技術等)	1	30	30					
		基礎看護学援助論 IV 診療援助技術(呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術等)	1	30	30					
		基礎看護学援助論 V 診療援助技術演習(呼吸・循環、創傷管理・救命救急処置等)	1	30		30				
		基礎看護学援助論 VI 診療援助技術演習(与薬・感染防止・安全確保に関する技術)	1	30		30				
		基礎看護学援助論 VII 看護過程	1	30		30				
		専門分野 I 学内 小計	10	285	165	120	0	0	0	0
	臨床実習	基礎看護学実習 I	1	45	45					
		基礎看護学実習 II	2	90		90				
		専門分野 I 臨床実習 小計	3	135	45	90	0	0	0	0
専門分野 I 小計		13	420	210	210	0	0	0	0	
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論 I 慢性疾患患者のセルフケア、系統別健康問題の患者への看護援助	1	30		30				
		成人看護学援助論 II 成人看護過程・がん看護	1	30			30			
		成人看護学援助論 III 急性期・手術期患者看護	1	30			30			
		成人看護学援助論 IV 急性期・手術期患者の看護過程・技術	2	45				45		
		小計	6	165	0	60	60	45	0	0
	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論 I 老年期の日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論 II 老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論 III 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15				15		
		小計	4	105	0	30	60	15	0	0
	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30			30			
		小児看護学援助論 I 病態治療学、病気・障害を持つ子どもの看護	2	45			45			
		小児看護学援助論 II 病気を持つ子どもの看護・看護過程の展開	1	30				30		
		小計	4	105	0	0	75	30	0	0
	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30			30			
		母性看護学援助論 I 病態治療学、妊娠・分娩期の看護	2	45			45			
		母性看護学援助論 II 産褥・新生児の看護	1	30				30		
		小計	4	105	0	0	75	30	0	0
	精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15			15			
		精神看護学援助論 I 精神疾患の理解と治療	2	45			45			
	精神看護学援助論 II 精神看護の実態とその倫理	1	30				30			
	小計	4	90	0	0	60	30	0	0	
臨床実習	成人看護学実習 I	3	135				135			
	成人看護学実習 II	3	135					135		
	老年看護学実習 I (老人保健施設実習30時間含む)	2	90				90			
	老年看護学実習 II	2	90					90		
	小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90					90		
	母性看護学実習	2	90					90		
	精神看護学実習	2	90					90		
	専門分野 II 臨床実習 小計	16	720	0	0	0	225	495	0	
専門分野 II 小計		38	1290	0	90	330	375	495	0	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30		30				
		在宅看護援助論 I 在宅療養者関連する制度と展開	1	15			15			
		在宅看護援助論 II 在宅における日常生活援助技術と実際	1	30				30		
		在宅看護援助論 III 在宅援助技術(看護過程)	1	15				15		
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30					30	
		看護管理	1	30					30	
		災害看護学	1	30						30
		看護研究	1	30						30
		統合看護演習	1	30						30
		小計	9	240	0	0	45	45	90	60
臨床実習	在宅看護論実習	2	90					90		
	統合実習	2	90						90	
	小計	4	180	0	0	0	0	90	90	
統合分野 小計		13	420	0	0	45	45	180	150	
総計		98	3075	540	630	585	420	735	165	
				1170		1005		900		

2019年度 3学年(1回生)学科進捗表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	3学年		チェック欄
				前期	後期	
	看護関連法令	1	15		15	
	社会保障・社会福祉	1	30	30		
	公衆衛生学	1	30	30		
	専門基礎分野 小計	3	75	60	15	
	成人看護学実習Ⅱ	3	135	135		
	老年看護学実習Ⅱ	2	90	90		
	小児看護学実習(保育園実習30時間含む)	2	90	90		
	母性看護学実習	2	90	90		
	精神看護学実習	2	90	90		
	専門分野Ⅱ臨地実習 小計	11	495	495	0	
看護の統合と実践	医療安全論	1	30	30		
	看護管理	1	30	30		
	災害看護学	1	30		30	
	看護研究	1	30	30		
	統合看護演習	1	30		30	
	小計	5	150	90	60	
	臨地実習					
	在宅看護論実習	2	90	90		
	統合実習	2	90		90	
	小計	4	180	90	90	
統合分野 小計		9	330	180	150	
	総計	23	900	735	165	
	総計			900		

2019年度 3学年（1回生）授業計画

分野	科目	単位数	時間	学年	学期	講師名
専門基礎	看護関係法令	1	15	3年	後期	木島 上
	社会保障・社会福祉	1	30	3年	前期	村山 くみ
	公衆衛生学	1	30	3年	前期	萩原 潤
専門分野Ⅱ		3	135	3年	前期	内田 祝子他
		2	90	3年	前期	本木 泉他
	臨地実習	2	90	3年	前期	太田 久子他
	臨地実習	2	90	3年	前期	小長根恵美子他
	臨地実習	2	90	3年	前期	阿部 利寿他
	在宅看護論実習	2	90	3年	前期	稲邊 照子他
統合と実践	医療安全論	1	30	3年	前期	阿部清美 小長根恵美子
	看護管理	1	30	3年	前期	佐藤愛子 武田幸子 太田久子 市成瑠美子
	災害看護学	1	30	3年	後期	佐々木麻美 阿部和枝 稲邊照子 市成瑠美子
	看護研究	1	30	3年	前期	市成瑠美子
	統合看護演習	1	30	3年	後期	市成瑠美子
	統合実習	2	90	3年	後期	熊谷政江他
合計	講義	8	225			
	実習	15	675			
		23	900			

領域	専門基礎分野			科目	看護関連法令	担当	木島 上		
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
3年次	後期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	90%		
						受講態度	10%		%
到達目標		看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。							
授業概要		保健師助産師看護師法の理解にとどまらず、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令についての理解を深め、生活や健康に関わる幅広い知識を学んでいく。							
学習者への期待 (含む準備学習)		看護は人間の生命に直接関わる職業であることを認識し、与えられた職責を正しく遂行するために関連する法令をしっかりと学んで欲しい。							
回数	単元	授業内容						授業方法	
1	法の概念 医事法	1) 法の概念 2) 医事法 (看護法・医師法医療関係資格法)						講義	
2	保健衛生法	1) 保健衛生法 (1) 共通保健法 (2) 分野別保健法 (3) 感染症に関する法						講義	
3	薬務法 環境衛生法	1) 薬務法 (1) 医薬品 (2) 毒物等 2) 環境衛生法 (1) 営業 (2) 環境整備						講義	
4	社会保険法	社会保険法 1) 雇用保障 2) 年金手当						講義	
5	福祉法	福祉法 1) 共通的福祉 2) 分野別福祉						講義	
6	労働法と社会 基盤整備	労働法と社会基盤整備 1) 労働法 2) 社会基盤整備等						講義	
7	環境法	環境法 1) 環境保全の基本法 2) 公害の防止法 3) 自然保護法						講義	
8	単位認定試験							試験	
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野			科目	社会保障・社会福祉	担当	村山 くみ
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
3年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%
						受講態度	10%
到達目標	<p>社会保障制度・社会福祉制度は、医療福祉の総合的サービスの供給体制における連携が重要である。保健・医療・福祉チームの一員として対象生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、その役割と機能を学ぶ。</p>						
授業概要	<p>講義では、社会保障制度と社会福祉制度の変遷や仕組みについて学び、多様なニーズに対応するための保健・医療・福祉の連携のあり方について理解を深めます。</p>						
学習者への期待 (含む準備学習)	<p>予習：次回の授業内容を確認のうえ、テキストの該当箇所を読み、疑問点等を調べておいてください。復習：授業で使用したプリントやテキストを読み返し、重要事項等をまとめてください。</p> <p>その他：福祉に関するさまざまなニュースに目を通すよう心掛けてください。</p>						
回数	授業計画						授業方法
1	現代社会と社会保障・社会福祉						講義
2	諸外国における社会福祉の発達						講義
3	日本における社会福祉の発達						講義
4	社会保障の財政と社会福祉の実施体制						講義
5	医療保障制度						講義
6	介護保険制度						講義
7	所得保障制度						講義
8	生活保護制度						講義
9	児童家庭福祉						講義
10	障害者福祉						講義
11	高齢者福祉						講義
12	地域福祉						講義
13	ソーシャルワーク実践						講義
14	保険医療と福祉の連携						講義
15	単位認定試験と解説						試験
教科書	守本とも子 編「看護職をめざす人の社会保障と社会福祉」みらい						
参考文献	系統監護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院						
備考							

領域	専門基礎分野			科目	公衆衛生学	担当	萩原 潤
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
3年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
到達目標		公衆衛生の概念と歴史を学び、生活者の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。 保健衛生行政や疾病の疫学と予防について理解する。					
授業概要		環境と人との関わりや、保健統計などによる現在の社会の状態を学んだ上で、健康にとって有害な要因を取り除くための社会に取り組みについて学習する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		自分が所属する自治体のこと、そして自身の周りにある健康や保健に関する社会的な取り組みを調べてみてください。					
回数	授業計画						授業方法
1	公衆衛生の概念と歴史						講義
2	公衆衛生の活動対象						講義
3	公衆衛生のしくみ						講義
4	環境と健康（1）：地球規模の環境						講義
5	環境と健康（2）：身の回りの環境						講義
6	国際保健						講義
7	疫学（1）：健康指標						講義
8	疫学（2）：暴露と疾病						講義
9	地域保健（1）：母子保健，成人保健						講義
10	地域保健（2）：高齢者保健，精神保健，歯科保健						講義
11	地域保健（3）：難病支援，感染症対策						講義
12	学校と健康						講義
13	職場と健康						講義
14	健康危機管理・災害保健						講義
15	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院					
参考文献		鈴木庄亮ほか「シンプル衛生公衆衛生学」南光堂、「国民衛生の動向」厚生労働統計協会					
備考							

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学実習	担当	阿部利寿
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
3年次	前期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
授業概要		病棟実習を通して、精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、療養生活を余儀なくされた対象および家族に対しての看護を実践する。				
学習者への期待 (含む準備学習)		病態などの基礎的知識を理解し、個別性を踏まえた看護過程を展開できるようになってほしい。				
実習内容						
<p>【実習時期】 3年次（平成31年5月～12月）</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習施設】 一般地方独立行政法人 宮城県立病院機構 宮城県立精神医療センター 医療法人東北会 東北会病院 IMSグループ 医療法人財団明理会 西仙台病院 医療法人松田会 エバーグリーン病院</p> <p>【実習目的】 精神に障害のある対象を尊厳のある人間として理解し、病院での療養生活を余儀なくされた対象および家族に対して看護を実践できる基礎能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害のある対象および家族の状況や抱える心理的負担を理解する。 2. 社会生活に適応することを目指した日常生活の自立への援助を実践できる。 3. 尊厳のある人間としての患者-看護師間の相互関係を構築して、自己の援助的関わりの振り返りができる。 4. 精神医療における看護の役割・機能を理解する。 5. 他職種との連携について理解する。 6. 看護学生として望ましい態度を身につけることができる。 <p>【実習計画】</p> <p>実習病院では一人の対象者を受け持ち、情報収集し看護過程の展開を行い、必要な援助を実践する。</p>						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院					
参考文献	薄井坦子 科学的看護論 日本看護協会出版会					
備考						

領域	統合分野			科目	医療安全	担当	小長根恵美子 (24) 阿部清美 (6)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
3年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験 100%				
到達目標		人は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点からしてはならないこと」「すべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。								
授業概要		医療現場で起こりうる様々な看護事故の種類について実際の例を基に学び、その防止についても理解を深める。								
学習者への期待 (準備学習含む)		看護師は最終的な医療行為者や観察者となることを認識しつつ、観察の不足が重大事故に繋がる日常に身を置くことを考えながら真剣に取り組んでほしい。								
回数	単元		授業内容				授業方法			
1	医療安全を学ぶことの大切さ		<ul style="list-style-type: none"> 人はなぜ間違いをおかすのか 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの責務 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務 				講義	小長根		
2	事故防止の考え方		<ul style="list-style-type: none"> 医療事故と看護業務 看護事故の構造 看護事故防止の考え方 							
3	診療の補助の事故防止 (I) および (II)		<ul style="list-style-type: none"> 業務特性から見た患者に投与する業務の事故防止 (総論) 注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器での事故防止 輸血業務と事故防止 内服与薬業務と事故防止 経管栄養 (注入) 業務と事故防止 							
4			<ul style="list-style-type: none"> チューブ管理と事故防止 							
5	療養上の世話の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 療養上の世話における事故のとらえ方と防止 (総論) 転倒、転落事故防止 摂食中の窒息、誤嚥事故防止 異食事故防止 入浴中の事故防止 							
6										
7	業務領域をこえて共通する 間違いと発生要因		<ul style="list-style-type: none"> 業務領域をこえて共通する患者間違い 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 							
8	医療安全とコミュニケーション		<ul style="list-style-type: none"> 不正確、不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 							
9	看護師の労働安全衛生上の事故防止		<ul style="list-style-type: none"> 職業感染 抗がん剤の曝露防止 放射線被曝 ラテックスアレルギー 院内暴力 							
10	組織的な安全管理体制への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> 組織としての医療安全対策 システムとしての事故防止の具体例 重大事故発生次の医療チームおよび組織の反応 							
11	医療安全対策の国内外の潮流		<ul style="list-style-type: none"> わが国の医療安全対策の潮流 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 産業界から学ぶフューマン・ファクターズの取り入れ 							
12	医療安全の実際		その1						講義	阿部
13			その2							
14			その3							
15	単位認定試験								試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院								
参考文献		医療におけるヒューマンエラーなぜ間違えるどう防ぐ (第2版) 河野龍太郎 医学書院 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 川島みどり 医学書院 ヒヤリ・ハット11,000事例によるエラーマップ完全本 川村治子 医学書院 医療事故 看護の法と倫理の視点から (第2版) 石井トク 医学書院								
備考										

領域	統合分野			科目	看護管理	担当	佐藤愛子(12) 武田幸子(4) 太田久子(8) 市成瑠美子(3)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
3年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
到達目標	保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療機関を取り巻く環境の変化と看護管理への影響について理解する。								
授業概要	看護のマネジメントは、人・物・金・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して、理想とする看護を提供するプロセスである。看護管理の直面する問題と課題について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)	2年次までに学習した各領域の援助論の基本事項について整理し、問題意識を持って自ら学ぶ姿勢を期待する。								
回数	単元			授業内容			授業方法		
1	看護とマネジメント			看護管理学とは、一看護におけるマネジメント			講義	太田	
2	看護ケアのマネジメント			看護基準と看護手順、患者の権利の尊重					
3				安全管理看護職の協働、他職種との協働					
4	看護職のキャリア マネジメント			キャリアとキャリア形成 看護職のキャリア形成、看護専門職としての成長			講義	市成	
5	看護サービスの マネジメント			看護サービスのマネジメントの対象と範囲			講義	佐藤	
6				組織目的達成のマネジメント					
7				協働のためのマネジメント、情報のマネジメント、技術のマネジメント					
8				サービスの評価					
9	マネジメントに必要な 知識と技術			組織とマネジメント			講義	市成	
10				リーダーシップとマネジメント、看護のモラル 看護の質の保証					
11	看護をとりまく諸制度			看護の定義 看護、職と法制度、看護職の法的責任			講義	市成	
12				看護実践の領域と場、医療制度					
13	看護管理の実際①						講義	武田	
14	看護管理の実際②								
15	単位認定試験						試験		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院								
参考文献									
備考									

領域	統合分野			科目	災害看護学		担当	佐々木麻美(4) 阿部和枝(2) 稲邊照子(20) 市成瑠美子(4)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
3年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	70%	授業態度	30%
到達目標	1) 災害医療・災害看護の概念を理解できる。 2) 災害各期の看護活動を理解できる。 3) 地域を守る防災対策や看護について学び、看護師としての役割を理解する。 4) 災害時の応急処置の実際を理解できる。 5) 世界の災害や保健・医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性和役割について理解できる。								
授業概要	1) 災害看護の定義を学び、災害における健康問題と医療・看護の基礎知識を災害サイクルに則って学ぶ。 2) 災害時の応急処置の実際を演習する。 3) 医療・看護の国際協力とその仕組み、活動の実際などを学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)	1) 災害が及ぼす変化は、地域の人々の暮らしと密接に関連しながら健康や生活に影響を及ぼす事を理解し、災害サイクルにおける被災者の健康やニーズに応じた看護の必要性和役割を認識してほしい。 2) 災害発生時の人道支援も専門的知識を有する人を必要としている。看護師として活動するためにも必要な知識であると意識して臨んでほしい。								
回数	単元		授業内容				授業方法		
1	災害についての理解		1. 災害看護のあゆみ 1) 災害とは 2) 日本の災害 3) 災害の種類 4) 災害に関する法律				講義	稲邊	
2	災害医療への理解		2. 災害医療 1) 災害医療及び特徴 2) わが国の災害医療対応の整備						
3			3) 災害情報の種類 4) 災害対応に関わる職種間・組織						
4	災害看護の要点		3. 災害看護 1) 災害看護とは 2) 災害看護の定義と役割						
5			3) 災害看護の対象 4) 災害看護の特徴と看護活動						
6			5) 災害に応じた活動 ①現場別災害看護 (急性期・・・現場・病院)・(慢性期・・・仮設住宅) (静穏期・・・平時のそなえ) ②対象別災害看護 (子供・妊産婦・高齢者・精神障害者・在日外国人)						
7	災害看護の実際 ①						講義	佐々木	
8	災害看護の実際 ②								
9	心のケア		4. 災害とこころのケア 1) 被災者のこころのケア(遺族・被災者救援者) 2) 被災者のストレス対応				講義	阿部	
10	応急処置と看護技術		5. 演習 1) トリアージ				演習	稲邊	
11			2) 包帯・三角巾の巻き方 3) 副子固定法						
12			4) 止血法 5) 移送・搬送						
13	国際看護への理解		5. 国際看護とは 1) 多文化・異文化 2) 国際看護の概念 3) 看護の対象と活動内容 4) 日本における国際看護活動				講義	市成	
14			5) 国際看護活動の実際						
15	単位認定試験・まとめ						試験		
教科書	看護の統合と実践 災害看護学 メディカ出版								
参考文献									
備考									

領域	統合分野			科目	看護研究	担当	市成瑠美子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	レポートのまとめ	70%	
						授業態度	30%	
到達目標		1. 看護研究に取り組む上での基本的な考えを理解出来る。 2. 看護研究の目的、種類について理解出来る。 3. 看護研究の過程について理解出来る。 4. 事例研究に関する基礎的な知識と方法について理解出来る。 5. 看護研究を実際に行い、研究成果を発表することが出来る。 6. 研究成果を論文にまとめる事が出来る。						
授業概要		看護研究及びケーススタディに関する一般的な知識を学び、臨地実習で受け持ったケースの看護過程について振り返り、看護理論を活用しながら看護について考えを深めると共に、今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)		臨地実習での看護援助の内容を振り返り、検討するという手法は、皆さんが、今後看護職に就いた時に日常の看護内容を振り返り、具体的な看護の方向を見出す為に身につけたい必須の学習内容です。そのプロセスの中で、ぶつかった疑問や問題を受け止め、それを自分の頭で考え、行動を起こして1つ、1つ乗り越えて、自分の看護者としての力にして行きましょう。						
回数	単元	授業内容				授業方法		
1	看護研究とは	看護研究の意義と必要性、倫理的配慮				講義		
2		研究方法の特徴と展開				講義		
3		研究プロセス				講義		
4	文献活用	研究における文献検索の意義と検索方法				講義		
5		文献検討				講義		
6	ケーススタディとは	ケーススタディとは				講義		
7	方法	ケーススタディの進め方				講義		
8		ケースレポート作成、発表の仕方				講義		
9		ケースレポート演習（作成～発表、論文作成まで）オリエンテーション				講義		
10		ケーススタディ演習（ケースの選択）				演習		
11		ケーススタディ演習（テーマ決定）				演習		
12		ケーススタディ演習（テーマ決定）				演習		
13		ケーススタディ演習（ケースレポート骨子案の作成）				演習		
14		ケーススタディ演習（ケースレポート作成：序論～援助の実際まで）				演習		
15		ケーススタディ演習（ケースレポート作成：序論～援助の実際まで）				演習		
教科書	高橋百合子監修：看護学生のケーススタディ、メジカルフレンド社、2011.							
参考文献	1. Virginia Henderson R.N.M.A. 著、湯楨ます、小玉香津子訳、看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 2011. 2. 高橋百合子監修：看護学生のケーススタディ、メジカルフレンド社、2011.							
備考								

領域	統合分野			科目	統合看護演習		担当	市成瑠美子								
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法										
3年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	レポート	60%	受講態度	40%							
到達目標		1. 統合実習を効果的に学ぶために、学生個々に十分な準備ができる。 2. 看護実践能力を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。														
授業概要		統合演習では、本学での3年間で履修した学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに実習できるように、その準備を行い、実習後の演習では、統合実習での学びを通して自己の看護の実践能力（知・技・心）を評価し、発表の場を設け専門職としての自己の課題を明確にする内容とする。														
学習者への期待 (準備学習含む)		今までの臨地実習を振り返り、自己の課題や技術経験の不足などを踏まえ統合実習の準備ができる。複数受け持ちの場合の優先すべき根拠を明確にし、考えられるようになってほしい。														
回数	単元			授業内容				授業方法								
1	統合演出について事例展開			実習前演習 ・統合演習オリエンテーション ・統合実習のキーワードに関する講義 ・看護過程の紙上事例展開（個人学習、グループワーク）				講義								
2								演習								
3																
4																
5	多重課題対応			・入院時病歴聴取 ・複数患者受け持ちを想定した1日の業務計画立案 ・看護記録の記載・申し送り・ ・多重課題対応について（講義、演習、振り返り）				演習								
6																
7	看護技術演習			・看護技術演習 ・学びのまとめ （グループワーク、発表、全体討議、課題レポートの提出）				演習								
8																
9	統合実習まとめ			実習後演習 ・統合実習のまとめ ・実習の目的目標の到達度の確認 ・実習中の記録類の完成 ・統合実習に関するkeywordsの整理（KJ法にて、グループワーク、発表） ・自己の看護観の整理（グループワーク、発表） ・卒業時の看護技術到達度の評価 ・実習記録類、まとめのレポートの提出				演習								
10																
11								講義・演習								
12								自己の看護観の整理							演習	
13																
14	記録類の完成							講義・演習								
15																
教科書		随時配布														
参考文献																
備考																

領域	統合分野			科目	臨地実習 在宅看護論実習	担当	稲邊照子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
3年次	3年全期	2単位	90時間		実習	実習目標到達度	100%
授業内容	訪問看護ステーション・在宅緩和施設において、地域で療養しながら生活している人とその家族を理解し、在宅看護の実践を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)	在宅看護は対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。対象者のプライバシーやあらゆることの意味決定を尊重するなど、深い人間理解と教育的な要素などの資質も求められる。常に相手から学び取る姿勢を大事にして、各領域から学んだ知識・技術を活用した実習にしてほしい。						
回数	実習内容						
1 実習期間	3年次5月～11月						
2 実習施設	訪問看護ステーション(居宅支援事業所含む) あおい訪問看護ステーション若林・ 訪問看護ステーション葵会仙台 ディサービス悠々 訪問看護ステーションわぎケア ディケア・ 葵の園仙台東 地域医療連携室…葵会仙台病院 外来診療…葵会仙台病院						
3 実習目標	1) 訪問看護活動を通して在宅療養者とその家族が理解できる。 2) 在宅療養者を取りまくケアサポートシステムが理解できる。 3) 在宅療養の生活を維持するための援助方法について理解できる。 4) 在宅療養に移行するためのリハビリテーションについて理解できる。 5) 居宅介護支援事業所の役割が理解できる。 6) 看護学生として倫理的行動を身につけることができる。						
4 実習計画	1) 実習スケジュールは、訪問看護ステーション、ディケア、病院の外来棟及び病院 地域医療連携室						
5 実習の進め方	1) 実習初日はステーション長または指導者からオリエンテーションを受ける。 2) 訪問者選定(在宅療養者、家族の事前情報をカルテ、指導看護師より得る) 3) 訪問前アセスメント・行動計画立案し、指導者より指導を受ける。 4) 訪問看護師に同行し、看護活動の見学、一部実施する。 5) 訪問看護後は振り返り(評価・援助の方向性)を行い、翌日の実習に臨む。 6) 居宅事業所では役割・業務を指導者からの説明・同行し確認による実習を行う。 7) 実習最終日は行動計画、実施・評価等をもとにカンファレンスを行う。						
6 方法	1) 毎日「実習行動計画表」(記録様式2)に必要事項を記入し、持参する。 2) 朝のミーティング終了後に『実習行動計画表』(記録様式2)に記入した事項を実習指導者、ならびにステーションスタッフに発表する。その後担当教員と指導者のアドバイスに基づいて実習計画を修正し、実施する。 3) 「実習行動計画」(記録様式2)に実習内容・結果・評価を記入し、指導を受ける。学び・感想も記入し、翌日の朝担当教員に提出する。 4) 可能であれば、主治医、指導者による受け持ち患者についての説明を受ける						
教科書							
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜指示する。						
備考	詳細は実習要項を参照						

領域	統合分野			科目	統合実習	担当	市成瑠美子 他		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法			
3年次	前期～後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表	100%		%
							%		%
授業の概要		看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。							
学習者への期待 (含む準備学習)		“タイムマネジメント”・“優先順位”・“チームとして看護する”ことの大切さに気づいてほしい。							
実習内容									
【実習期間】		平成31年9月～平成31年12月							
【実習施設】		東北労災病院 公立刈田総合病院 仙台整形外科病院 JCOH 仙台南病院 真壁病院							
【実習目的】		看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。 また、看護の意義について考え、療養する人々とその家族の健康上および日常生活上の問題を理解し、保健・医療・福祉の連携における看護の果たす役割を認識して行動できる基礎的能力を養う。							
【実習目標】		<ol style="list-style-type: none"> 病棟管理の実際や、他部門との調整等の見学を通して看護マネジメントについて理解する 複数の患者を受け持ち、患者の状況のアセスメントやケアの優先順位の判断、時間管理し、適切な看護の提供を考えることができる チームリーダーの役割、チームメンバーの役割を理解し、業務の調整や、医師や他部門との連携・協働、及びチームの一員としての役割が理解できる 							
【実習計画】		<ul style="list-style-type: none"> 実習病院において複数の患者を受け持ち、情報収集し優先順位の根拠を考え必要な援助をグループで協力し実践する。 看護チームに対する理解をふかめるため、申し送りの実施や退院調整など他職種を交えたカンファレンスに参加する。 看護管理の業務を知るために、看護師長からの説明や行動を共にし、管理の実際を学ぶ。 							
教科書	既習の教科科目および参考図書								
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。								
備考	※詳細は実習要項を参照								

2019年度

シラバス

2学年（第2回生）

学校法人 医療創生大学
葵会仙台看護専門学校

2019年度 2学年(2回生):教育課程 学科進度表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年		フェニック欄	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30		30					
		情報処理	1	30		30					
		生命倫理	1	15			15				
		教育学	1	30			30				
		医療英語 I	1	30	30						
	人間と生活・社会の理解	医療英語 II	1	30		30					
		社会学	1	30			30				
		ホスピタリティ論	1	15	15						
		心理学	1	30		30					
		保健体育	1	30			30				
		音楽	1	30	30						
		人間関係論(家族論含む)	1	30	30						
	看護学生生活論	1	30	30							
基礎分野/小計		13	360	135	120	105	0	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学 I 人体構造・生理学・皮膚と膜、血液	1	30	30						
		人体構造・機能学 II 呼吸器系・循環器系・泌尿器系	1	30	30						
		人体構造・機能学 III 消化器系・内分泌系・骨格系・筋系	1	30	30						
		人体構造・機能学 IV 中枢・末梢神経、皮膚及び感覚器、生殖器系、免疫系	1	30	30						
	疾病の成り立ちと回復の促進	生化学	1	30	30						
		ライフステージ栄養学	1	30		30					
		薬理学	1	30		30					
		病理学	1	30	30						
		免疫と病原微生物学	1	30		30					
		病態治療学 I 概論、呼吸器、循環器、腎泌尿器	1	30	30						
		病態治療学 II 消化器、内分泌	1	30		30					
		病態治療学 III 体液調節、皮膚・体温調節、血液・造血器、アレルギー、膠原病、感染症	1	30		30					
		病態治療学 IV 運動、脳神経、神経内科	1	30		30					
		病態治療学 V 耳鼻科、眼科、皮膚科、歯・口腔、放射線療法、緩和終末期ケア、臨床検査	1	30			30				
		病態治療学 VI 外科概論、外科各論、救急法	1	30			30				
	健康支援と社会保障制度	リハビリテーション論	2	45			45				
		総合医療論	1	15	15						
		看護関連法令	1	15						15	
		社会保障・社会福祉	1	30					30		
	公衆衛生学	1	30					30			
	専門基礎分野/小計		21	585	195	210	105	0	60	15	
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	2	45	45						
		臨床看護概論	1	30		30					
		基礎看護学援助論 I 生活援助技術(環境調整、食摂、排泄、活動・休息、清潔・衣生活等)	1	30	30						
		基礎看護学援助論 II 生活援助技術演習(復健環境・活動・休息、苦痛の緩和等)	1	30	30						
		基礎看護学援助論 III 生活援助技術演習(食事・排泄・清潔・衣生活の援助技術等)	1	30	30						
		基礎看護学援助論 IV 診療援助技術(呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術等)	1	30	30						
		基礎看護学援助論 V 診療援助技術演習(呼吸・循環、創傷管理・救命救急処置等)	1	30		30					
		基礎看護学援助論 VI 診療援助技術演習(薬・感染防止・安全確保に関する技術)	1	30			30				
	基礎看護学援助論 VII 看護過程	1	30		30						
	専門分野 I 学内/小計	10	285	165	90	30	0	0	0	0	
	臨床実習	基礎看護学実習 I	1	45	45						
		基礎看護学実習 II	2	90		90					
		専門分野 I 臨床実習 小計	3	135	45	90	0	0	0	0	
専門分野 I/小計		13	420	210	180	30	0	0	0		
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論 成人看護の対象と目的	1	30		30					
		成人看護学援助論 I 慢性疾患患者のセルフケア、系統別健康問題の患者への看護援助	1	30			30				
		成人看護学援助論 II 成人看護過程・がん看護	1	30			30				
		成人看護学援助論 III 急性期・周手術期患者看護	1	30			30				
		成人看護学援助論 IV 急性期・周手術期患者の看護過程・技術	2	45				45			
		小計	6	165	0	30	90	45	0	0	
	老年看護学	老年看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		老年看護学援助論 I 老年期の日常生活援助	1	30			30				
		老年看護学援助論 II 老年期の健康障害時の看護	1	30			30				
		老年看護学援助論 III 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15				15			
	小計	4	105	0	30	60	15	0	0		
	小児看護学	小児看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		小児看護学援助論 I 病態治療学、病児・障害を持つ子どもの看護	2	45			45				
		小児看護学援助論 II 病児を持つ子どもの看護・看護過程の展開	1	30				30			
		小計	4	105	0	30	45	30	0	0	
	母性看護学	母性看護学概論 看護の対象と目的	1	30		30					
		母性看護学援助論 I 病態治療学、妊娠・分娩期の看護	2	45			45				
		母性看護学援助論 II 産褥・新生児の看護	1	30				30			
		小計	4	105	0	30	45	30	0	0	
	精神看護学	精神看護学概論 看護の対象と目的	1	15		15					
		精神看護学援助論 I 精神疾患の理解と治療	2	45			45				
精神看護学援助論 II 精神看護の実践とその倫理		1	30				30				
小計		4	90	0	15	45	30	0	0		
臨床実習	成人看護学実習 I	3	135					135			
	成人看護学実習 II	3	135						135		
	老年看護学実習 I (老人保健施設実習30時間含む)	2	90					90			
	老年看護学実習 II	2	90						90		
	小児看護学実習(保育施設実習30時間含む)	2	90						90		
	母性看護学実習	2	90						90		
	精神看護学実習	2	90						90		
	専門分野 II 臨床実習 小計	16	720	0	0	0	225	495	0		
専門分野 II/小計		38	1290	0	135	285	375	495	0		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30			30				
		在宅看護援助論 I 在宅看護者関連する制度と展開	1	15				15			
		在宅看護援助論 II 在宅における日常生活援助技術と実際	1	30				30			
		在宅看護援助論 III 在宅援助技術(看護過程)	1	15				15			
	看護の統合と実践	医療安全論	1	30					30		
		看護管理	1	30					30		
		災害看護学	1	30						30	
		看護研究	1	30						30	
		統合看護演習	1	30						30	
		小計	9	240	0	0	30	60	90	60	
臨床実習	在宅看護論実習	2	90					90			
	統合実習	2	90						90		
統合分野/小計		13	420	0	0	0	0	90	90		
総計		98	3075	540	645	555	435	735	165		
				1185		990		900			

2019年度 2学年(2回生):教育課程 2年次学科進度表

教育課程	授業科目	単位数	時間数	2年次		チェック欄
				前期	後期	
科学的思考の基礎	生命倫理	1	15	15		
	教育学	1	30	30		
人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	30		
	保健体育	1	30	30		
基礎分野 小計		4	105	105	0	
健康支援と社会保障制度	病態治療学Ⅴ 耳鼻科、眼科、皮膚科、歯・口腔、放射線療法、緩和終末期ケア、臨床検査	1	30	30		
	病態治療学Ⅵ 外科総論、外科各論、救急法	1	30	30		
	リハビリテーション論	2	45	45		
専門基礎分野 小計		4	105	105	0	
	基礎看護学援助論Ⅵ 診療援助技術演習(与薬・感染防止・安全確保に関する技術)	1	30	30		
専門分野Ⅰ 小計		1	30	30	0	
	成人看護学援助論Ⅰ 慢性疾患患者のセルフケア、系統別健康問題の患者への看護援助	1	30	30		
	成人看護学援助論Ⅱ 成人看護過程・がん看護	1	30	30		
	成人看護学援助論Ⅲ 急性期・周手術期患者看護	1	30	30		
	成人看護学援助論Ⅳ 急性期・周手術期患者の看護過程・技術	2	45		45	
	小計	5	135	90	45	
	老年看護学援助論Ⅰ 老年期の日常生活援助	1	30	30		
	老年看護学援助論Ⅱ 老年期の健康障害時の看護	1	30	30		
	老年看護学援助論Ⅲ 老年期の健康障害時の援助技術(看護過程)	1	15		15	
	小計	3	75	60	15	
	小児看護学援助論Ⅰ 病態治療学、病気・障害を持つ子どもの看護	2	45	45		
	小児看護学援助論Ⅱ 病気を持つ子どもの看護・看護過程の展開	1	30		30	
	小計	3	75	45	30	
	母性看護学援助論Ⅰ 病態治療学、妊娠・分娩期の看護	2	45	45		
	母性看護学援助論Ⅱ 産褥・新生児の看護	1	30		30	
	小計	3	75	45	30	
	精神看護学援助論Ⅰ 精神疾患の理解と治療	2	45	45		
	精神看護学援助論Ⅱ 精神看護の実態とその倫理	1	30		30	
	小計	3	75	45	30	
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	3	135		135	
	老年看護学実習Ⅰ(老人保健施設実習30時間含む)	2	90		90	
	専門分野Ⅱ臨地実習 小計	5	225	0	225	
	専門分野Ⅱ 小計	22	660	285	375	
在宅看護論	在宅看護概論 看護の対象と目的	1	30	30		
	在宅看護援助論Ⅰ 在宅療養者関連する制度と展開	1	15		15	
	在宅看護援助論Ⅱ 在宅における日常生活援助技術と実態	1	30		30	
	在宅看護援助論Ⅲ 在宅援助技術(看護過程)	1	15		15	
	小計	4	90	30	60	
臨地実習	在宅看護論実習	2	90			
	統合実習	2	90			
	小計	4	180	0	0	
統合分野 小計		8	270	30	60	
総計		35	990	555	435	
総計				990		

2019年度 2学年(2回生) 授業計画

分野	科目	単位数	時間	学期	講師名
基礎	生命倫理	1	15	前期	菅原 宏道
	教育学	1	30	前期	本間 明信
	社会学	1	30	前期	磯崎 匡
	保健体育	1	30	前期	星 由華里
専門基礎	病態治療学Ⅴ	1	30	前期	日高 輝久(14)
					奥平 直人(4)
					川村 仁 (2)
					佐々木勝忠 (2)
					佐々木理衣(4)
	阿部 裕子(4)				
病態治療学Ⅵ	1	30	前期	庄司好己 宮本慶一	
リハビリテーション論	2	45	前期	齋藤カツ子(33) 工藤 尚哉(12)	
専門Ⅰ	基礎看護学援助論Ⅵ	1	30	前期	宇野由佳 武田 藍
専門分野Ⅱ	成人看護学援助論Ⅰ	1	30	前期	内田祝子・鈴木和子
	成人看護学援助論Ⅱ	1	30	前期	内田祝子・高橋さくら
	成人看護学援助論Ⅲ	1	30	前期	内田祝子・鈴木和子
	成人看護学援助論Ⅳ	2	45	後期	内田祝子・鈴木和子
	臨地実習	3	135	後期	内田 祝子他
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30	前期	本木 泉他
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30	前期	猪狩 綾
	老年看護学援助論Ⅲ	1	15	後期	本木 泉
	臨地実習	2	90	後期	本木 泉他
	小児看護学援助論Ⅰ	2	45	前期	飯沼 一字(20)
					太田 久子
					庄司 宗和
	小児看護学援助論Ⅱ	1	30	後期	太田 久子
	母性看護学援助論Ⅰ	2	45	前期	岩本 充(8)
					小長根恵美子
	母性看護学援助論Ⅱ	1	30	後期	小長根恵美子
	精神看護学援助論Ⅰ	2	45	前期	中川誠秀(4)
吉村淳(2)					
山田和男(4)					
藤田 享 阿部 利寿					
精神看護学援助論Ⅱ	1	30	後期	中鉢 亘	
				阿部 利寿稲	
統合分野	在宅看護概論	1	30	前期	邊照子
	在宅看護援助論Ⅰ	1	30	前期	伊藤明美
	在宅看護援助論Ⅱ	1	15	後期	伊藤明美
	在宅看護援助論Ⅲ	1	15	後期	稲邊照子・伊藤明美
合計	講義	30	765		
	実習	5	225		
		35	990		

領域	基礎分野 (科学的思考の基礎)			科目	生命倫理	担当	菅原 宏道		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	90%	宿題	10%
到達目標		生命に関わる倫理的、社会的な諸問題、およびそれらを取り巻く法的あるいは社会制度的な環境と現在の動向を理解する。							
授業概要		医療技術の発展や生命科学の進展によって生起している、我々の生命に関わる倫理的、社会的な問題を学ぶ。また、それら諸問題を自身の人間観や死生観などに即して考える。							
学習者への期待 (含む準備学)		講義を通じて、数学や科学における考え方と、倫理学における考え方の違いを、念頭に置いてもらえればと思います。毎回の授業前に教科書を読んでおいて下さい。							
回数	単元	授業内容						授業方法	
1	ガイダンス	イントロダクション、医の倫理と生命倫理学						講義	
2	生命倫理	生殖補助医療						講義	
3		人工妊娠中絶と胎児の権利						講義	
4		がん告知とインフォームド・コンセント						講義	
5		終末期医療と安楽死						講義	
6		生体および死体臓器移植と脳死						講義	
7		医療倫理の四原則とケース・スタディ						講義	
8		単位認定試験・まとめ						試験	
教科書		『マンガで学ぶ 生命倫理』、児玉聡 (著)、化学同人							
参考文献		『生命倫理学入門 (第4版)』、今井道夫 (著)、産業図書、2017年 『入門・医療倫理 I (改訂版)』、赤林朗 (著)、勁草書房、2017年							
備考		ほぼ毎回、自作のレジュメを配布します。必要に応じて資料も配付します。							

領域	基礎分野 (科学的思考の基礎)			科目	教育学	担当	本間 明信		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%		
到達目標		望ましい人間形成のあり方、人間の可能性に向けての教育の意義を理解し、看護における教育活動に応用するための方法を理解する。							
授業概要		確かな根拠に基づいて、物事を判断する力を養う。							
学習者への期待 (含む準備学習)		つねに「問い」を持つ習慣を身につけてほしい。							
回数	授業内容						授業方法		
1	学ぶということ、教えるということに何が問われているか						講義		
2	日本の学校教育の現状と課題						講義		
3	確認と理解の相違はなにか						講義		
4	「問い」と「吟味」の学び方の形成						講義		
5	「対話」「討論」のコミュニケーション能力の形成						講義		
6	心と体のつながり、かかわりについて						講義		
7	エンパワーメントとはなにか、そこで問われているものはなにか						講義		
8	教師の専門性、指導力とは何か						講義		
9	教材研究能力とは						講義		
10	学習課題の設定と授業の構造化の課題						講義		
11	クリティカルシンキングについて						講義		
12	学習者の内面理解と対応の技術について						講義		
13	評価とはなにかー授業者の自己評価						講義		
14	学習者自身の自己評価と課題の認識						講義		
15	単位認定試験・まとめ						試験		
教科書		「教育学」 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	基礎分野 (人間と生活・社会の理解)			科目	社会学	担当	磯崎 匡		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	60%	レポート	20%
						出席	20%		
到達目標	社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また我々の生活にいかなる影響を及ぼしているかを理解する。								
授業概要	本講義の目的は、様々な社会問題を題材として人間と社会の関係性について考察することである。講義ではまず、「組織」、「民族」、「家族」、「ジェンダー」、「地域社会」をキーワードとして我々が暮らす社会の特徴と問題を明らかにする。次に、医療に限定せず広く保健医療を対象として社会的に分析する。最後に、「職業集団」による専門職支配の場としての病院が抱える課題について考える。								
学習者への期待 (含む準備学習)	可能ならば講義中グループワークを行ってもらおう。 受講生には講義終了時に毎回レポートを提出もらおう。 講義終了時に次回の講義のテキスト該当箇所を指示するので予め読んでおくこと。								
回数	単元		授業内容				授業方法		
1	人間と社会		社会的存在としての人間				講義		
2	組織		集団・組織・ネットワーク、グローバリゼーション、ノーマライゼーション				講義		
3	民族(1)		ナショナリズム				講義		
4	民族(2)		日本の文化、価値観				講義		
5	民族(3)		諸外国の民族、価値観				講義		
6	家族(1)		家族概念と家族形態				講義		
7	家族(2)		現代家族の諸問題				講義		
8	ジェンダー		セックスとジェンダー、性別役割				講義		
9	地域社会(1)		コミュニティと地域				講義		
10	地域社会(2)		ソーシャルサポートと社会関係資本				講義		
11	地域社会(3)		ヘルスプロモーションにおける地域				講義		
12	保健医療の社会学(1)		保健医療の社会学の射程				講義		
13	保健医療の社会学(2)		病と生きる				講義		
14	職業集団		働く側から見た病院、患者の側から見た病院				講義		
15	単位認定試験・まとめ						試験		
教科書	系統看護講座 基礎分野 社会学 医学書院								
参考文献	講義の際適宜紹介する。								
備考	初回の講義のはじめに授業の進め方のガイダンスを行うので必ず出席すること。								

領域	基礎分野 (科学的思考の基礎)			科目	保健体育	担当	星 由華里		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	50%	出席率及び 課題提出	50%
到達目標		<p>健康の保持増進や疾病の予防を図り、生きがいのある生活を送るための運動・スポーツの有能性を 知り、運動・スポーツを理解する。</p> <p>心身の健康を保持するための具体的な運動を体験し体力の向上を目指す。</p>							
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> 事例を知り、理論を学び、様々な実践を通して、体を動かす事の重要性・必要性を理解する。 他者とのコミュニケーションを通して相互理解を深め、協力しながら、自らの健康や体力を維持できる力を身につける 							
学習者への期待 (含む準備学習)		<ul style="list-style-type: none"> 筆記用具、水分補給用飲料持参 用具の片付け、清掃を協力して行う事 運動着 運動靴着用、長髪の場合は束ねる事 課題は決められた期日まで提出する事 							
回数	授業内容						授業方法		
1	ヘルスプロモーションについて 体力測定① 行動変容ステージ調査①						講義・演習		
2	アイスブレイク運動 ダイナミック・スタティック ストレッチング①						講義・演習		
3	運動の重要性 必要性を知る(事例①) ダイナミック・スタティック ストレッチング ②						講義・演習		
4	良い立位姿勢 ウォーキング①(主観的運動強度・目標心拍数・インターバル法)						講義・演習		
5	熱中症予防について ウォーキング②応用(ノルディックウォーキング)						講義・演習		
6	生活習慣を振り返る エアロビクスダンス リラクゼーション						講義・演習		
7	トレーニング原理・原則 レジスタンス運動 スタビライゼーション						講義・演習		
8	ロコモティブシンドロームについて① 運動器退行性疾患(事例②) 運動療法						講義・演習		
9	ロコモティブシンドロームについて② ロコモ度調べ 介護予防運動の紹介と実践						講義・演習		
10	認知・運動機能向上運動(スクエアステップ・ラダートレーニング・コグニサイズ)						講義・演習		
11	レクリエーション ゲーム、レクリエーションダンス						講義・演習		
12	身体ケア・機能向上体験(簡単なヨガ バランスボール利用 タオルエクササイズ)						講義・演習		
13	体力測定② 行動変容ステージ調査② 試験対策						講義・演習		
14	体力測定・行動変容ステージの事前事後変化報告 試験対策						講義・演習		
15	単位認定試験と解説(簡単な実技動作及び少数の用語理解問題)						試験・講義		
教科書		随時資料配布							
参考文献		健康体力づくり事業団 健康運動指導士・実践指導者テキスト他参考							
備考		国家試験に過去出題された問題と共通する内容を紹介し学びます。							

領域	専門基礎分野			科目	病態治療学V	担当	日高輝久(14) 川村仁(2) 佐々木勝忠(2) 奥平直人(4) 佐々木理衣(4) 阿部裕子(4)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%		
到達目標	<p>【耳鼻科】耳・鼻・のどの解剖を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。 【眼科】眼科全般への基礎的な理解を得ること、それらを踏まえた患者介護の知識を習得すること。 【皮膚科】日常的に遭遇する基本的な皮膚疾患についての知識を学ぶ。 【歯・口腔】歯・口腔の機能を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。 【放射線療法】放射線の基本的知識を理解し、放射線治療の基本について学ぶ。 【緩和・終末期ケア】緩和ケア、終末期ケアについての基本を学ぶ。 【臨床検査】臨床検査の基礎的な知識を得、病態・治療の理解に生かす。</p>								
授業概要	それぞれの病態生理、機能を理解し、疾患、検査、治療法について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)	予習と復習を行い、講義とテキストの内容をしっかりと身につける。 【歯・口腔】歯だけでなく、口腔粘膜の疾患ならびに誤嚥によるリスクについての理解を深めてください。								
回数	単元			授業内容			授業方法		
1	耳鼻科			1. 耳・鼻・顔面神経			講義	日高輝久	
2				2. 咽喉、頭頸部腫瘍					
3	眼科疾患			1. 眼科疾患					
4				2. 検査、治療・処置、手術					
5	皮膚科			1. 皮膚の構造・機能、各種皮疹の供覧					
6				2. 皮膚感染症、熱傷（分類と治療の基本）、褥瘡					
7	歯・口腔			1. 歯・口腔疾患、検査・治療・処置			講義	川村 仁	
8				2. 口腔ケア			講義	佐々木勝忠	
9	放射線療法			1. 放射線の基本的知識			講義	奥平直人	
10				2. 放射線治療					
11	緩和・終末期ケア			1. 緩和ケア			講義	佐々木理衣	
12				2. 終末期ケア					
13	臨床検査			1. 臨床検査の役割			講義	阿部裕子	
14				2. 主な臨床検査					
15	単位認定試験・まとめ								
教科書	<p>【耳鼻科】系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 【眼科】系統看護学講座 成人看護学13 眼 医学書院 【皮膚科】系統看護学講座 成人看護学12 皮膚 医学書院 【歯・口腔】系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔 医学書院 【放射線】系統看護学講座 臨床放射線医学別巻 医学書院 【緩和・終末期ケア】系統看護学講座 緩和ケア 医学書院 【臨床検査】系統看護学講座 臨床検査 医学書院</p>								
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野			科目	病態治療学VI	担当	庄司好己(4) 宮本慶一(20)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
到達目標	<p>【外科総論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外科手術に伴う手術侵襲とそれに対する生体の反応について理解する。 ・侵襲の大きな手術に伴っても起こり得るショックとその合併症について理解する。 ・術後合併症の原因、病態と対処法について理解するとともに、術後疼痛管理の重要性を理解する。 ・手術に必須な手技である麻酔法と輸血管理につき理解する。 <p>【外科各論】 頭頸部から腹部まで外科的疾患の診断治療について理解する。</p> <p>【救急法】 主要病態に対する救急処置、診断治療について理解する。</p>							
授業概要	<p>外科的疾患に関連する疾患・治療、麻酔について理解する。</p> <p>急に身体の疾患または損傷を受けた人々を対象に診療する救急処置について理解する。</p>							
学習者への期待 (準備学習含む)	<p>外科総論は、外科療法における周術期管理と看護の意味付けを理解する上で重要な学問です。講義とテキストの内容をしっかりと身につけてください。外科各論で習得すべき知識は多岐にわたり、膨大であります。講義とテキストを上手く活用し、効率的に勉学に励んでください。救急医療については講義とテキストの内容をしっかりと身につけてください。</p>							
回数	単元			授業内容			授業方法・担当講師	
1	外科総論			1. 手術侵襲と生体反応、炎症 2. ショック，播種性血管内凝固症候群（DIC） 3. 多臓器不全（MOF）			講義	宮本
2								
3								
4				4. 術後合併症とその対策 5. 術後疼痛管理 6. 麻酔法，輸血管理				
5								
6								
7	頭頸部，肺・胸部			講義	庄司			
8								
9	外科各論			心臓、脈管系			講義	宮本
10								
11				消化器および腹部（1）食道，胃・十二指腸、腸、腸膜				
12								
13	救急法							
14								
15	単位認定試験・まとめ						試験	
教科書	<p>【外科総論】 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>【外科各論】 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 医学書院</p> <p>【救急法】 系統看護学講座別巻 救急看護学 医学書院</p>							
参考文献								
備考								

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論Ⅷ		担当	宇野 由佳 (16)	
							武田 藍 (14)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験		100%
到達目標		1. 診療の補助技術である与薬が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を修得する。 2. 診察の補助技術である診察・検査が安全・安楽に行われるための基礎知識、技術を修得する。						
授業概要		看護の観察・情報収集について、シュミレーターや器具を用いて測定し、実技の演習を通し看護の実践力を高める。						
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能の知識が必要となります。関連する臓器について、講義までに復習し理解しておきましょう。						
回数	単元		授業内容				授業方法	
1	薬物療法と看護		与薬の基礎知識と薬の管理 与薬の種類・原則				講義	宇野由佳
2			経口与薬、外用薬、誤嚥防止					
3			筋肉内注射、皮下、皮内注射の方法と実際 輸血・抗がん剤投与時の管理と実際					
4			演習：注射器の取り扱い、アンプル、バイアルの薬液準備 皮下注射				演習	宇野由佳
5								
6			演習：筋肉内注射				演習	宇野由佳
7								
8	診察・検査に伴う看護		検体検査（尿、便検査、採血、血糖検査、喀痰検査）				講義	武田藍
9			演習：採血				演習	武田藍
10								
11			生体情報のモニタリング 心電図検査、心電図モニター、血管留置カテーテルモニター				講義	武田藍
12			演習：心電図検査				演習	武田藍
13								
14			診察・検査・処置の介助技術				講義	武田藍
15			単位認定試験・まとめ				宇野由佳	
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院						
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社						
備考								

領域	専門分野Ⅱ			科目	成人看護援助論Ⅱ (慢性期)	担当	内田祝子 (20) 高橋さくら (8) 鈴木和子 (2)
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%
						レポート課題	30%
達成目標	1.セルフマネジメントに関する理論、看護過程、看護技術を適応し、慢性期患者の再調整を促す看護を修得する。 2.がんの特殊性を多角的に捉え、患者・家族のQOLを高め、患者と家族が主体的に生きるための看護支援、人生の最後の時を支える看護について理解する						
授業内容	慢性疾患、がん、終末期にある成人患者・家族に対してセルフケアを促し、慢性病との共存を支える看護援助方法を習得し、看護過程が展開できる能力を養う。						
学習者への期待	1.常に「何故」という問題意識をもって積極的に授業に臨むようにすること。 2.成人看護援助論は看護実践能力を養うことを目標にしており、基本から積み重ねた学習が必要になる。従って、自分自身が何のために学習するかを明確にしながら、各年次の学習を丁寧に積み重ねて臨床実習に望むよう要望する。						
回数	授業計画						授業方法
1	イントロダクション	看護過程展開の技術 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断①					講義 内田
2	慢性期患者の 看護過程	ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断② アセスメント(分析・解釈)のポイント 事例の紹介					
3		情報の整理、アセスメント					
4		全体像(関連図)					
5		統合(検証、仮診断から確定診断)					
6		看護計画(看護目標、成果目標、具体策)					
7							
8							
9		慢性期の看護技術	自己血糖測定				演習 鈴木(和)・内田
10	がん看護	がんの特殊性、予防・早期発見、患者のQOL、倫理的問題					講義 高橋
11		がん患者の看護					
12		がん治療に対する看護					
13		がん治療の場と看護					
14		人生の最期の時を支える患者への看護過程					演習 内田
15	単位認定試験 講義のまとめ						内田
教科書	①系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1]成人看護学総論 [2]呼吸 [3]循環器 [8]腎・泌尿器 医学書院 ③江川隆子著:ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューヴェルヒロカワ ④小松浩子著:系統別看護学講座 別巻 がん看護 医学書院						
備考							

領域	専門分野Ⅱ	科目	成人看護学援助論Ⅲ (急性期・周手術期看護)			担当	内田祝子(20) 鈴木和子(10)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%		
到達目標		急性期および周手術期にある患者・家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、急性期および手術患者の系統別看護の知識と技術を修得する。							
授業概要		急激に健康破綻を来した患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、看護問題を明確化し、生命の危機的状況に働きかける知識・技術を修得して、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出すように働きかける看護能力を養う。							
学習者への期待 (準備学習含む)		1. 急性期および周手術期にある患者の安全と人間としての尊厳を守る看護者としての能力及び良識を育むことに努めること。 2. これまで学習した基礎看護学・病態治療学・成人看護学援助論Ⅰで学んだ知識と技術を振り返り、関連性を持って学ぶこと。 3. 看護・医療技術を正確に迅速に修得できるよう、集中力と緊張感をもって臨むこと。							
回数	単元		授業内容			授業方法			
1	イントロダクション		急性期・周手術期看護ガイダンス			講義 内田			
2	手術を受ける患者の看護 1		手術前看護			講義 内田			
3			手術中看護						
4			手術後看護① 術後患者の観察・アセスメント						
5			手術後看護② 手術後合併症の予防と看護						
6			手術後看護③ 回復促進へ向けての看護						
7			集中治療室入室患者の看護						
8			手術を受ける患者の看護 2		消化器手術①			講義 鈴木(和)	
9	消化器手術② 頸部(甲状腺)の手術								
10	開頭手術 腎・泌尿器手術								
11	運動器手術								
12	肺・胸部の手術								
13	心臓・脈管系の手術①				講義 内田				
14	心臓・脈管系②								
15	単位認定試験 授業のまとめ					内田			
教科書		①小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 [1] 成人看護学総論、[2] 呼吸器、[3] 循環器、[5] 消化器、[6] 内分泌・代謝、[7] 脳神経、 [8] 腎・泌尿器、[9] 女性生殖器、[10] 運動器 ②矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ③北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ④山勢博彰・山勢善江他編集：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院							
備考									

領域	専門分野Ⅱ			科目	成人看護学援助論Ⅳ	担当	内田祝子 (21) 鈴木和子 (24)
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2単位	45時間	23回	講義 演習	単位認定試験	70%
						レポート課題	30%
到達目標		1. 紙上事例を通して急性期および周手術期にある患者・家族に看護過程を展開する。 2. 急性期および手術を受ける患者・家族看護を理解し、看護技術を修得する。					
授業概要		急激に健康破綻を来した患者・家族の心身の苦痛やストレス・危機状況を多面的に理解し、心身の侵襲に伴う変化への対応と回復への適応がはかれる看護技術を修得し、看護過程が展開できる能力を養う。					
学習者への期待 (準備学習含む)		1. 生命の危機的状況・手術で侵襲を受ける患者の心身の安全・安楽の提供と共に、正確で迅速な看護技術を身につけてほしい。 2. 急性期・手術を受ける患者の容態変化は大きいため、その過程を既知の病態治療学と関連づけ、アセスメント能力を身につけ、事例での看護展開が遅れることのないように臨んで欲しい。					
回数	単元			授業内容		授業方法	
1	イントロダクション			周手術期の看護過程の展開方法 事前学習について		講義 内田	
2	手術を受ける患者の 看護過程			周手術期のアセスメントのポイント 術前：情報の整理、アセスメント（分析・解釈）		講義 演習 内田	
3				全体像（関連図）の作成			
4				術前：統合（検証、仮診断から確定診断）、確定診断、 看護目標、看護計画作成			
5 6				術後：情報の整理、アセスメント、仮診断、全体像、統合			
7 8				術後：確定診断、看護目標、看護計画立案			
9 10				実施・評価の記載方法			
11	急性期の治療過程にある 患者への看護技術			技術演習ガイダンス		講義 鈴木 (和)	
12 13				術後ベッドの作成 呼吸・循環状態・意識状態などの観察、アセスメント		演習 鈴木 (和) 内田	
14 15				輸液の管理・術後ドレーン類の管理 呼吸器合併症の予防技術・早期離床の促進技術			
16 17				術後の保清について 手術後の身体の保清			
18				看護技術のまとめ			
19	救急看護			救急看護とは		講義 鈴木 (和)	
20				12誘導心電図の実際		演習 鈴木 (和) 内田	
21 22				止血法、固定法、異物除去法			
23	単位認定試験					内田	
教科書		①小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院 〔1〕成人看護学総論、〔2〕呼吸器、〔3〕循環器、〔5〕消化器、〔6〕内分泌・代謝、〔7〕脳神経、 〔8〕腎・泌尿器、〔9〕女性生殖器、〔10〕運動器 ②矢永勝彦・小路美喜子編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ③北島政樹・江川幸二編集：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 ④山勢博彰・山勢善江他編集：系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 ⑤江川隆子著：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューヴェルヒロカワ					
備考							

領域	専門基礎分野Ⅱ		科目	成人看護学実習Ⅰ (慢性期)		担当	内田祝子 鈴木和子 鈴木久美子 高橋さくら他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前・後期		3単位	135時間	1回	実習	実習目標達成度	100%
授業内容	慢性疾患に罹患している成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に、看護過程とセルフケア等看護理論を活用し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を実践する能力を養う。実習においては、慢性的な健康問題により、ストレス・危機的状況にある成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチとセルフケア等の看護諸理論を適用して、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を実践する能力を養うことを目的とする。						
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学・成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱで積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨んで欲しい。						
	<p>実習時期：2年次1月中旬～3月初旬 3年次4月～11月</p> <p>実習期間：3週間</p> <p>実習時間：8:30～17:00（1時間を45分とし、1日10時間、半日4.5時間とする 昼食時間は除く）</p> <p>1) 臨地実習：8:30～17:00</p> <p>2) 学内実習：9:00～17:00</p> <p>実習施設：総合南東北病院 みやぎ仙南中核病院 真壁病院 仙台整形外科病院</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患に罹患している対象の病態・治療心理・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用することができる。 慢性疾患に罹患している対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 慢性疾患に罹患している対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるようにセルフケア等の看護理論を活用し、看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>実習計画</p> <p>実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表・ビデオ学習・文献学習で学ぶ。 臨地実習では、学生1～2名で慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 						
教科書							
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考	詳細は実習要項を参照						

領域	専門基礎分野Ⅱ	科目	成人看護学実習Ⅱ (急性期)			担当	内田 祝子 鈴木 和子 鈴木久美子 高橋さくら他
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次 後期 3年次 前・後期		3 単位	135 時間	1回	実習	実習目標達成度	100%
授業内容	急性期にある対象すなわち急性疾患患者、慢性疾患の急性増悪患者、手術等の侵襲的な治療検査を受ける成人患者・家族を多面的に理解し、看護師と患者の人間関係を基盤に、看護過程を通して、手術侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を実践する能力を養う。						
学習者への期待 (含準備学習)	基礎看護学・成人看護学概論・成人看護学援助論で学んだ知識・技術をもって、実習の目的を意識しながら臨地実習に臨むようにしましょう。急性期・周手術期、特に手術直後の患者は容態や治療経過の変化が早いので、主体的・積極的に看護展開ができるようにして欲しい。						
<p>実習時期：2年次1月中旬～3月初旬 3年次4月～11月</p> <p>実習期間：3週間</p> <p>実習時間：8:30～17:00（1時間を45分とし、1日10時間、半日4.5時間とする 昼食時間は除く）</p> <p>1)臨地実習：8:30～17:00</p> <p>2)学内実習：9:00～17:00</p> <p>実習施設：総合南東北病院 みやぎ仙南中核病院 真壁病院 仙台整形外科病院 仙台厚生病院</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある対象の心理・身体・社会的影響を理解し、対象が心身共に良好な状態で検査・治療を受ける為の看護援助に活用できる。 急性期にある対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 手術などの侵襲的検査・治療を受ける対象の侵襲に伴う変化を理解し、合併症を予防し心身の回復と日常生活への適応に向けた看護援助ができる。 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し、医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 <p>実習計画</p> <p>実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習では、看護過程の展開(紙上事例)を行い、また、技術演習の中で急性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表・ビデオ学習・文献学習で学ぶ。 臨地実習では、学生1～2名で急性期にある患者1名を受け持ち、術前・術後の看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 							
教科書							
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考	詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野Ⅱ			科目	老年看護学援助論Ⅰ	担当	本木 泉			
開講年次	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	80%		%	
						レポート	20%		%	
到達目標		1. 老年者の日常生活上における援助ニーズを理解できる。 2. 老年者の特性をふまえた援助方法を理解できる。 3. 老年者のQOL向上を目指した健康増進プログラムを理解できる。								
授業概要		高齢者の擬似体験をもとに、生活のなかでの不自由さや危険を体験的に学習してほしい。老年期の予備力・適応力の低下の原因や廃用症候群とその予防方法を関連づけて学べるように組み立てていく。								
学習者への期待 (含む準備学習)		老化に伴う生理的变化と疾患とのつながりを理解し予防的な関わりについて学んでほしい。								
回数	単元	授業内容						授業方法		
1	高齢者のアセスメント	1) 身体の高齢変化とアセスメント (皮膚・感覚器・運動系の変化) ・白内障 黄斑変性症・老人性皮膚掻痒症 ・白癬						講義		
2		2) " (循環器・呼吸器・消化器・ホルモン・泌尿器)						講義		
3	高齢者によくみられる身体症状	1) 身体症状 (発熱・痛み・掻痒) とアセスメント						講義		
4		2) 身体症状 (脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感) とアセスメント						講義/演習		
5	日常生活を支える基本的活動	1) 基本動作と環境アセスメント						講義		
		2) 日常生活活動の評価指標								
6		3) 転倒・廃用症候群のアセスメントと看護						講義		
7		起床・移乗・歩行介助						演習		
8		4) 食事のアセスメントと看護 口腔の変調・嚥下機能のアセスメント						講義		
9		誤嚥防止・口腔ケアの実際						演習		
10		5) 排泄のアセスメントと看護						講義/演習		
11		" (臥位・立位でのおむつ交換)								
12		6) 清潔のアセスメントと看護 " (入浴方法・爪切り・耳のケア)						講義		
13		7) 生活リズム (活動と休息) のアセスメントと看護						講義		
14		8) コミュニケーションのアセスメントと看護						講義		
15		単位認定試験 まとめ						試験/講義		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門分野Ⅱ			科目	老年看護学援助論Ⅱ	担当	猪狩 綾		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	100%		%
									%
到達目標		1. 老年者に特有な健康障害が理解できる。 2. 健康障害に応じた援助方法が理解できる。							
授業概要		老年特有な疾患理解とともに生活障害や合併症・二次障害など看護について演習を織り交ぜながら学習をしていく。							
学習者への期待 (含む準備学習)		老化や生活習慣などによってどのような疾患がおきやすいか、予防も含め必要な看護を学んでほしい。							
回数	単元		授業内容						授業方法
1	検査・治療を受ける高齢者への看護		1) 検査と看護 栄養ケアマネジメント						講義
2			2) 薬物療法と看護						講義
3			3) 放射線療法・化学療法と看護						講義
4			4) 手術療法と看護						講義
5	疾患を持つ高齢者への看護		1. 老年特有の疾患						講義 講義
6			1) 脳卒中 2) 心不全(うっ血性心不全) 3) パーキンソン病・パーキンソン症候群						
7			2. 老年に多い感染症						講義
8			1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 2) 尿路感染症						講義
9			3. 運動系疾患 1) 骨粗鬆症 2) 圧迫骨折 3) 大腿骨頸部骨折 4) 変形性膝関節症 5) 褥瘡 4. 腎・泌尿器系疾患 1) 前立腺肥大 2) 神経因性膀胱						
10	終末期にある高齢者の看護		1. 終末期にある老年者の援助 ①死の準備教育						
11			2. 終末期にある老年者の援助 ②穏やかな死の看取り						講義
12	生活・療養の場における看護の展開		1. 在宅高齢者への看護						講義
13			2. 保健医療福祉における看護 3. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護						講義
14			3. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者と救命救急 3) 高齢者と災害看護						講義
15	単位認定試験		単位認定試験 まとめ						試験/講義
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた看護過程 医学書院								
参考文献									
備考									

領域	専門分野Ⅱ			科目	老年看護学援助論Ⅲ	担当	本木 泉		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験	40%	看護過程展開	60%
									%
到達目標		1. 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護問題を理解する。 2. 事例を基に健康障害をもつ老年者の看護過程を展開する基礎的能力を養う。							
授業概要		生活機能をもとにアセスメントし実践場面で応用できる思考を養うために、高齢者の特徴的な事例を提供し考えさせる。							
学習者への期待 (含む準備学習)		事例をもとに、生活機能重視の高齢者の「もてる力」を引き出し、老化による廃用症候群の予防を組み込んだ看護計画を立案できるようになってほしい。							
回数	単元	授業内容						授業方法	
1	看護過程	看護過程 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方 1) 高齢者が望む生活を中心とした看護過程 2) 生活行動モデルによる看護過程 3) 目標志向型思考の看護過程						講義	
2	認知症患者のアセスメント・看護	認知症患者のアセスメント・看護 認知症患者のアセスメント—認知症の診断、重症度の判断—						講義	
3		認知症患者の看護計画の立案① 対応の基本 —中核症状としての失見当識、心理症状、行動的症状、情緒の安定(徘徊、せん妄)—						演習	
4		認知症患者の看護計画の立案② —生活リズムの調整、再調整、アクティビティケア—						演習	
5		認知症患者の看護① 一日常生活自立への援助、廃用性委縮の予防—						演習	
6		認知症患者の看護② —療法的なアプローチ、家族ケア—						演習	
7		認知症患者の看護③ —倫理的側面への配慮、高齢者虐待—						講義	
8	単位認定試験	単位認定試験						試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院								
参考文献									
備考									

領域	専門分野Ⅱ			科目	老年看護学実習Ⅰ	担当	本木 泉 他		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法			
2年次	後期	2単位	90時間	2週間	実習	実習評価表	100%		%
							%		%
授業の概要		<p>・老人福祉センターの制度上の意義と活動を理解し、健康維持やQOL向上のための活動に参加させていただく。</p> <p>・介護老人保健施設では入所者の方を受け持ち、生活支援を視点とした問題の抽出と残存機能を意識した日常生活援助の実践を学ぶ</p>							
学習者への期待 (含む準備学習)	健康維持のためにがんばっている高齢者と接し、その心理や生きがい・QOLなどが考えられるようになってほしい。								
実習内容									
<p>【実習期間】2年後期～3年前期</p> <p>【実習施設】老人福祉センター（高砂・台原・沖野・大野田・郡山） 介護老人保健施設（葵の園・仙台 葵の園・仙台）</p> <p>【実習目的】地域や施設における高齢者との関わりを通して、対象者を生活者として理解し、高齢者の持てる力に着眼した看護を実践する能力を養う。</p> <p>【実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な高齢者との触れ合いを通して、暮らしや健康への思いを知り、健康維持のために老人福祉センターの果たす役割について理解できる 2. 施設における各職種の役割と協働・連携の重要性、看護師の役割が理解できる 3. 加齢変化や健康課題を持ちつつ生きる老年期にある対象の特徴について理解する。 4. 対象の生活機能上の課題に応じた援助が実践できる。 5. 自己の老年観・看護観を確認することができる。 6. 看護学生として望ましい態度を身につけることができる。 <p>【実習計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターは主体事業への参加または、デイサービス、サークルなどに参加させていただき高齢者の方との関わりを通し、老年観を深める。 ・介護老人保健施設実習においては、1名の方を受け持ち、生活者の視点で情報収集し必要な援助を考え、スタッフの援助に参加させていただく。介護保険制度の理解や多職種の連携と役割について学ぶ。 									
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院								
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。								
備考	詳細は実習要項を参照								

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅰ		担当	飯沼一宇(20) 太田久子(6) 庄司宗和(18)		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	2単位	45時間	23回	講義・演習	単位認定試験	80%	出欠	10%
						レポート内容	10%		
到達目標		子どもの疾患とそれらの病態及び治療法について理解し、そこから生じる諸問題への適切な援助方法が理解できる							
授業概要		子どもの疾患やそれらの病態及び治療法、そこから生じる様々な諸問題に対する適切なアセスメント方法と看護援助方法を学ぶ							
学習者への期待 (含む準備学習)		1年次に基礎看護学で学んだ、人体構造・機能学、病態治療学についての復習をして臨むことを期待する							
回数	単元		授業内容				授業方法・担当教員		
1	子どもに関連する疾患の病態と治療		染色体異常・先天異常・新生児				講義 飯沼		
2			代謝性疾患・内分泌疾患						
3			免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患						
4			感染症						
5			呼吸器疾患・循環器疾患						
6			消化器疾患・腎、泌尿器および生殖器疾患						
7			血液、造血器疾患・悪性新生物						
8			神経疾患・運動器疾患・精神疾患						
9			皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患						
10			事故・外傷・災害・虐待						
11	病気や障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護				講義 太田		
12			入院中の子どもと家族の看護 外来、在宅療養中の子どもと家族の看護						
13			慢性期、急性期にある子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護				講義 庄司		
14			周手術期、終末期の子どもと家族の看護						
15	身体のアセスメント		アセスメントに必要な技術 身体的アセスメント①				講義 庄司		
16	子どもが示す症状と		身体的アセスメント②						
17	看護		症状を示す子どもの看護						
18	検査・処置を受ける		検査、処置時の看護				演習 太田 庄司		
19	子どもの看護								
20	プレパレーション		プレパレーション						
21			・講義、ガイダンス、事例紹介						
22			・ロールプレイ発表 ・まとめ、総括						
23	単位認定試験、まとめ						試験 太田		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ								
参考文献	・疾患別小児看護 中央法規出版 ・児童虐待おかもやま 116人の提言 吉備人出版								

領域	専門分野Ⅱ		科目	小児看護学援助論Ⅱ			担当	太田久子(14) 庄司宗和(14)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	40%	出欠	10%
						看護過程レポート	30%	技術演習レポート	20%
到達目標	子どもの疾患とそれらの病態及び治療法について理解するとともに、健康障害によって生じる問題に対し、適切な看護援助方法が理解できる。								
授業概要	子どもの主要な疾患を中心にそれらの病態及び治療法について学び、小児看護に必要な技術を演習する。その知識を基に紙上事例での看護過程の展開を行う。								
学習者への期待 (含む準備学習)	大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。 加えて、基礎看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。								
回数	単元	授業内容						授業方法・担当教員	
1	主な疾患とその 子どもの看護	染色体異常・先天異常と看護 代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患と看護						講義 庄司	
2		感染症・事故・外傷と看護 呼吸器疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護							
3		循環器疾患・血液、造血器疾患と看護 消化器疾患・悪性新生物と看護						講義 太田	
4		腎、泌尿器および生殖器疾患と看護 皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉疾患・精神疾患と看護							
5	小児看護に 必要な技術演習	・バイタルサインの測定 ・移動の援助(抱っこ、ベビーカー)						演習 太田・庄司	
6		・身体計測							
7		・抑制(おくる身法、点滴の固定方法)							
8		・検査・処置時の看護(座薬、腰椎穿刺)							
9	看護過程の展開	看護過程の展開(講義、事例紹介、グループワーク演習①)						講義 太田・庄司	
10		看護過程の展開(グループワーク演習②)							
11		看護過程の展開(グループワーク演習③)							
12		看護過程の展開(グループワーク演習④)							
13		看護過程の展開(グループワーク演習:発表、事例展開の解説)							
14		看護過程の展開(グループワーク演習:発表、事例展開の解説)							
15	単位認定試験、まとめ						試験 太田		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ								
参考文献	疾患別小児看護 中央法規出版 子どもの外来看護 へるす出版 小児看護過程+病態関連図第Ⅱ版 医学書院								
備考									

領域	専門分野Ⅱ	科目	小児看護学実習		担当	太田久子 庄司宗和
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	2単位	90時間	実習	実習評価表	100%
授業概要		保育所・病棟実習を通じて、成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する。				
学習者への期待 (含む準備学習)		大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。 小児看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。				
実習内容						
<p>【実習時期】 2年次後期（平成31年1～2月）から3年次前期（平成31年5月～7月）</p> <p>【実習期間】 2週間</p> <p>【実習施設】 病棟：地方独立行政法人 宮城県立こども病院 宮城厚生協会 坂総合病院 独立行政法人国立病院機構 宮城病院 保育所：六丁の目マザーグース保育園 青葉福祉会 荒井青葉保育園 千代福祉会 あっふる保育園 やまとまち あから保育園 カール英会話こども園</p> <p>【実習目的】 成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する能力を養う</p> <p>【実習目標】</p> <p>（保育所実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な乳幼児の成長発達及び、個別性を理解できる 2. 健康な乳幼児の特徴を踏まえ、成長発達を促すための養育の実際を理解できる 3. 健康な乳幼児の保育環境について、安全と保育衛生の面から理解することができる 4. 看護者としての望ましい態度が自覚できる <p>（病棟実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ小児の特性を理解し小児とその家族の抱える問題を捉えることができる 2. 健康障害を持つ小児の健康問題の解決を目指すとともに、成長発達を促せるよう小児とその家族に適切な援助を行うことができる 3. 他の職種との連携の必要性について考え、看護の役割について理解することができる 4. 健全な小児観を養うとともに、小児看護のあり方について考えることができる <p>【実習計画】</p> <p>保育所実習では正常な発育の子どもと環境を観察し、養育の実際を体験する。 実習病院では一人の子どもと家族を受け持ち、看護過程の展開を行ない必要な援助を実践する。</p>						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディアカ					
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考						

領域	専門分野Ⅱ			科目	母性看護学 援助論Ⅰ	担当	岩本 充 小長根恵美子	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
2年次	前期	2単位	45時間	23回	講義・演習	単位認定試験	100%	
到達目標	女性の生理の基本的内容について理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の疾患とそれらの病態及び治療法について理解するとともに、それら各期における必要な看護援助について学び理解する。							
授業概要	女性生殖器に関する基本的知識・病態と治療の学習を基にして、妊娠期・分娩期の看護について学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)	遺伝相談・不妊治療に関する知識も国家試験で問われるなど、注目されてきているので、興味を持って学習に取り組む事を期待する。							
回数	単元	授業内容				授業方法・担当教員		
1	女性生殖器に関する基礎知識・病態と治療	女性生殖器の構造と機能 遺伝相談・不妊治療				講義 岩本		
2		妊娠期 分娩期						
3		産褥期 新生児期						
4		婦人科疾患						
5	母性の発達を促す看護 妊娠期における看護	子どもを生み育てること				講義 小長根		
6		妊娠期：妊娠期の身体的・心理・社会的特性 その1						
7		妊娠期：妊娠期の身体的・心理・社会的特性 その2						
8		妊娠期：妊娠と胎児のアセスメント その1						
9		妊娠期：妊娠と胎児のアセスメント その2						
10		妊娠期：妊娠と家族の看護 その1						
11		妊娠期：妊娠と家族の看護 その2						
12		妊娠の異常と看護 その1						
13		妊娠の異常と看護 その2						
14		分娩期における看護	分娩期：分娩の3要素					
15			分娩期：分娩の経過					
16			分娩期：産褥・胎児・家族のアセスメント 産婦と家族の看護					
17			分娩期：分娩第1期・2期の看護					
18	分娩期：分娩第3期・4期の看護							
19	分娩の異常と看護 その1							
20	分娩の異常と看護 その2							
21	演習	演習(1)：レオポルド触診法、胎児心音聴取部位の観察				演習 小長根		
22		演習(2)：分娩機転と分娩時ケア						
23		単位認定試験・まとめ				試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院							
参考文献	カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア 第2版 医歯薬出版 カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術 医歯薬出版							

領域	専門分野Ⅱ			科目	母性看護学援助論Ⅱ (産褥・新生児期の看護)	担当	小長根恵美子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	100%
到達目標		産褥・新生児期の各期の特徴を知り、必要な看護援助について理解する。 また、妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期に起こりうる異常と看護についても理解できる。					
授業概要		産褥期・新生児期における看護を学び、その知識を基に紙上事例での看護過程の展開を行う。					
学習者への期待 (含む準備学習)		正常と異常の判断ができるように学習することが望まれる。 加えて、基礎看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。					
回数	単元	授業内容				授業方法・担当教員	
1	新生児期における看護	新生児期：新生児の生理				講義・関根	
2		新生児期：新生児のアセスメントと看護				講義・関根	
3		新生児の異常と看護 その1				講義・関根	
4		新生児の異常と看護 その2				講義・関根	
5	産褥期における看護	産褥期：産褥経過				講義・関根	
6		産褥期：褥婦のアセスメント				講義・関根	
7		産褥期：褥婦と家族の看護 施設退院後の看護				講義・関根	
8		産褥の異常と看護 その1				講義・関根	
9		産褥の異常と看護 その2				講義・関根	
10	看護過程の展開	看護過程の展開・事例展開の説明				講義・小長根、関根	
11		看護過程の展開（グループワーク演習）				講義・小長根、関根	
12	演習	新生児の諸計測、バイタルサインの測定				演習・小長根、関根	
13		沐浴（抱き方・更衣・おむつ交換）				演習・小長根、関根	
14		沐浴（抱き方・更衣・おむつ交換）				演習・小長根、関根	
15	試験	単位認定試験・まとめ				試験	
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院						
備考	カラーで学ぶ妊産褥婦のケア 第2版 医歯薬出版 カラーで学ぶ新生児の観察と看護技術 医歯薬出版 母性看護過程＋病態関連図 第2版 医学書院						

領域	専門分野Ⅱ			科目	母性看護学実習	担当	小長根恵美子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次後期・3年次		2単位	90時間	10日間	実習	実習評価表による評価 100%	
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象およびその家族への看護や母子・家族支援のための社会資源の活用の実際の場面を見学することから、看護の役割と責任を学ぶと共に対象に看護を実践する基礎能力を養う。						
学習者への期待 (含む準備学習)	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期などの対象の一般的な特徴に関する知識の整理を臨地実習の大切な準備と考えて、限られた期間の実習に体調を整えて臨んでほしい。						
授業内容・計画							
<p>I. 実習目的</p> <p>女性を取巻く環境の変化や妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を対象に看護を実践する能力を養う。</p> <p>II. 実習目標</p> <p>1. 妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期の特徴を理解し、母子およびその家族への母性看護に必要な看護技術を学ぶことができる。</p> <p>1) 妊娠期</p> <p>(1) 妊婦健診や妊婦対象の教室等をとおして、妊娠の経過を学び必要な援助が理解できる。</p> <p>(2) 対象への保健指導を理解できる。</p> <p>2) 分娩期</p> <p>(1) 分娩第1期、2期、3期、4期の定義と看護援助について学び、必要な援助ができる。</p> <p>(2) 陣痛緩和の方法を学び、活用できる。</p> <p>3) 産褥期</p> <p>(1) 身体的・心理的变化および子育て環境について理解できる。</p> <p>(2) 子宮復古・感染予防に関する指導と看護について理解できる。</p> <p>(3) 母子相互関係の確立を図るための看護について理解を深めることができる。</p> <p>(4) 父子関係の確立を図るための看護について理解できる。</p> <p>4) 新生児期</p> <p>(1) 出生直後の新生児の観察ができる。</p> <p>(2) 各種計測（バイタルサイン、頭囲、胸囲、身長、体重）が正しくできる。</p> <p>(3) 新生児の健康状態のアセスメントができる。（生理的体重減少、生理的黄疸）</p> <p>2. 母子保健に関連する法規や制度についての学びを基に、母子および家族支援のための社会資源について理解することができる。</p> <p>3. 対象者を取巻く医療チームの構成と役割を知り、チームの一員としての看護の役割と責任を学ぶことができる。</p> <p>4. 専門職者として守るべき看護倫理について考え、行動できる。</p> <p>III. 実習計画</p> <p>1. 病院・助産院・診療所等の施設で実習を行う。</p> <p>2. グループを編成し、1実習施設に1グループを配置する。</p> <p>3. 対象1名の受け持ち又は、診察・看護援助や保健指導場面の見学をとおして学ぶ。</p> <p>4. 状況に応じて実習指導者と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。</p> <p>IV. 実習時間</p> <p>原則 8:30～16:30</p>							

領域	専門分野Ⅱ			科目	精神看護学援助論Ⅰ (精神疾患の診断・治療 および援助方法)	担当	中川 誠秀 吉村 淳 山田 和男 藤田 享 阿部 利寿
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	前期	2単位	45時間	23回	講義・演習	単位認定試験	100%
到達目標		1. 個人とそれを取り巻く人々の関係を理解する。 2. 主な精神障害とその症状、治療の基本を理解する。 3. 精神科におけるケアの基本を理解する。 4. 精神科における身体ケアを理解する。					
授業概要		対象をとりまく人間関係を理解し、各精神疾患と治療、援助方法を理解する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		ここで学ぶコミュニケーション・スキルはどの診療科にも通じます。心して学び、身につけて下さい。					
回数	単元	授業内容				授業方法	
1	対象関係と人格 の発達について	対象関係論、ボウルビーの愛着理論、コフートの自己心理学、土居健郎の「甘え」とは				講義・阿部	
2		「ジョバリの窓」による自己分析のグループワーク				講義・GW・阿部	
3		自分について知ること				講義・阿部	
4	集団の役割と援助の方法	全体としての家族・家族療法の考え方と技法、集団の中の自己				講義・阿部	
5		人間と集団（グループダイナミクス、グループの実践）				講義/演習・阿部	
6	精神科における 対象について	精神を病むことと生きること、精神症状とは・さまざまな精神症状				講義・阿部	
7		ケアする相手について知る、関係性を理解する				講義・阿部	
8	精神科での診断・ 治療・検査 (5・6章)	統合失調症				講義・中川	
9		気分障害（双極性障害、及び関連障害、抑うつ障害）				講義・山田	
10		神経症性障害、ストレス関連障害、及び身体表現性障害、 神経発達障害、精神作用物質使用による精神及び行動障害				講義・中川	
11		生理的障害、及び身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害				講義・山田	
12		器質性精神障害、てんかん、認知症				講義・吉村	
13	ケアの人間関係	ケアの前提・原則（人としての尊厳を尊重する、互いの境界をまもる）				講義・阿部	
14		ケアの方法 1 そばにいてこと・遊びとユーモア・話す・聞く、 演習（視線・立ち方・すわる位置・声のトーンなど）				講義/演習・阿部	
15	関係をアセスメントする	関係のアセスメントの必要性 精神科におけるプロセスレコードの活用・事例提示				講義・阿部	
16		プロセスレコードをもとにグループワーク				演習・阿部	
17	患者一看護師関係における感情 体験	転移・逆転移、感情の容器、肯定的感情と否定的感情、医療の場の ダイナミクス（病棟・チーム・カンファレンスなど）				講義・藤田	
18		対処のむずかしい場面での対応（患者からの攻撃・拒否など）				講義・藤田	
19	身体ケアについて	精神科における身体ケアについて、身体にあらわれる心の痛み				講義・藤田	
20		精神療法としての身体ケア、抗精神病薬の有害反応、電気けいれん療法の 看護				講義・藤田	
21		身体合併症、身体ケアの実際				講義・藤田	
22		睡眠について、自傷行為・心的外傷への着目と回復へのケア				講義・藤田	
23	単位認定試験と解説						
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	専門分野Ⅱ			科目	精神看護学援助論Ⅱ (精神看護とサポート)	担当	中鉢 亘 阿部 利寿
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
2年次	後期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	100%
到達目標	1. 精神科看護の基本を理解する。 2. 整えられた生活に戻るよう環境調整するための方法を理解する。 3. 精神科以外における精神看護を理解する。 4. 精神に障害を持つ対象の看護過程の展開を理解できる。						
授業概要	こころの健康障害をもつ対象の社会復帰や自立に向けた援助を理解する。						
学習者への期待 (含む準備学習)	精神疾患をもつ対象者は、我々と変わりのない人々であることを理解し、少しでも偏見が薄まることを期待します。						
回数	単元	授業内容				授業方法	
1	精神科での看護 の役割	対象にとっての入院とは・入院治療のメリットとデメリット・入院時のアセスメントの必要性				講義・阿部	
2		治療的環境を理解する・精神科病棟の特徴と看護師の役割					
3		安全をまもる（リスクマネジメントの考え方と方法・災害時のケア）					
4		緊急事態への対応（自殺・暴力・離院、拘束）				講義・中鉢	
5		回復を助ける1（回復とは何か・回復を支える様々なプログラム）					
6		回復を助ける2（回復を支える様々なプログラム：集団精神療法の実際）					
7	地域における精神看護	地域で生活するための原則、生活を支える制度・地域で精神障害者を支援するための方法				講義・阿部	
8		地域での看護の実際、学校と職場におけるメンタルヘルス対策					
9	看護における感情労働	看護師の不安と防御、感情労働としての看護、看護師の感情ワーク、看護における共感、感情労働の代償					
10	看護過程の展開	統合失調症患者の看護過程（講義）、事例紹介、自己学習				講義、演習・阿部	
11		グループワーク				演習・阿部	
12		グループワーク					
13		グループワーク					
14	「看護過程の展開」 グループの発表と解説				演習、講義・阿部		
15	単位認定試験と解説						
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院						
参考文献	薄井坦子 科学的看護論 日本看護協会出版会						
備考							

領域	統合分野			科目	在宅看護概論	担当	稲邊照子		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	授業態度	10%
到達目標	<p>・日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。・在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。</p> <p>・在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。・在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。・現在の訪問看護制度の基本を理解できる</p>								
授業概要	在宅看護の変遷やその社会的背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。在宅看護の対象者の特性と支援のあり方、ならびにその支援の基盤となる訪問看護制度を学ぶ・さらに在宅ケアにおけるケアマネジメントや地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)	在宅看護は、家庭から地域へ広がりを加えて対象を捉えていく地域看護の主要な領域を担う。日々の生活の成り立ち、対象と家族成員の健康状態や地域社会とのつながりの中で理解することが必要となる。看護師国家試験でも重点が置かれている領域でもあり、出題数も増えてきている。自信の生活、社会情勢の変化、保健、医療、教育等の諸制度に関心を持って欲しい。								
回数	単元	授業内容						授業方法	
1	在宅看護の概念	1) 在宅看護の背景		2) 在宅看護の基盤				講義	
2		3) 地域療養を支える在宅看護の役割・機能							
3	在宅療養者と家族の支援	1) 訪問看護の対象者		2) 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件				講義	
4		1) 在宅療養の場における家族の捉え方		2) 在宅療養者の家族への看護					
5	地域包括ケアシステムにおける在宅看護	1) 地域包括ケア		2) 療養の場の移行に伴う看護				講義	
6		3) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携							
7		4) 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント							
8	地域療養を支える制度	1) 社会資源の活用		2) 医療保険制度				講義	
9		3) 後期高齢者医療制度							
10		4) 介護保険制度		5) 生活保護制度					
11		6) 障害者に関連する法律		7) 難病法					
11		8) 子供の在宅療養を支える制度と社会資源		9) 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源/高齢者施策					
12	在宅療養を支える訪問看護	1) 訪問看護特徴		2) 在宅を支える訪問看護ステーション				講義	
13		3) 訪問看護サービスの展開 (訪問看護における看護過程の特徴)							
14		4) 家庭訪問・初回訪問/訪問看護の記録							
15	まとめ	単位認定試験と解説						講義	
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版								
参考文献	新体系看護全書 在宅看護論 メディカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院								
備考									

領域	統合分野			科目	在宅看護援助論Ⅰ 在宅療養を支える技術	担当	伊藤明美		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・演習	単位認定試験	80%	レポート	20%
到達目標		1. 対象特性に応じたアセスメントができる。2. 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施できる。3. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。4. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。5. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。							
授業概要		在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的な転回方法を学ぶ。また、さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実際に結び付ける。(日常生活援助中心)							
学習者への期待 (準備学習含む)		1. 在宅看護は対象者と家族の意思決定を尊重して行わなければならない。又あらゆる看護領域の既習・知識技術が基本となる。関連領域の振り返りを行ったうえで、在宅で行える範囲とはの視点を持ちながら学んでほしい。							
回数	単元			授業内容			授業方法		
1	1. 訪問看護技術			1) 訪問看護の特徴 2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション			講義		
2				3) 家庭訪問・初回訪問 4) 在宅療養における看護過程の展開技術			講義		
3	2. 在宅看護における安全と危機管理			1) 在宅看護における危機管理 2) 日常生活における安全管理 3) 災害時における在宅療養と家族の健康危機管理 4) 生活ケアと医療的ケア			講義		
4	3. 在宅療養生活を支える基本的な技術			1) コミュニケーション 2) フィジカルアセスメント			講義/演習		
5				3) 環境整備 4) 生活リハビリテーション 5) 感染予防			講義/DVD		
6				6) ターミナルケア			講義 グループワーク		
7	4. 日常生活を支える看護技術			1) 食生活 2) 食のアセスメントと援助			講義 グループワーク		
8				3) 呼吸 4) 呼吸のアセスメントと援助			講義/演習		
9				5) 排泄 6) 排泄のアセスメントと援助			講義/演習		
10				7) 睡眠 8) 清潔と更衣 9) 清潔のアセスメントと援助			講義/演習		
11				10) ケリーパッド作成 11) 入浴、更衣			演習		
12				12) 肢位の保持と移動 13) 移動のアセスメントと援助			講義/演習		
13	5. 訪問看護演習			1) ロールプレイ 初回訪問			講義/演習		
14									
15	単位認定試験・まとめ								
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅療養を支える技術							
参考文献		新体系看護全書 在宅看護論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院							
備考									

領域	統合分野			科目	在宅看護援助論Ⅱ 療養を支える看護技術 (医療ケア)	担当	伊藤明美		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験	80%	レポート	20%
到達目標		1. 在宅療養支援では、生活ケアと医療的ケア技術が必要であることを理解できる。 2. 在宅療養の場における薬物療法に必要な看護技術が理解できる。 3. 在宅における医療的ケア援助技術の概要を理解できる。 3. 在宅での医療的ケアにおいて、各項目についてアセスメントや援助技術の基本を理解できる。							
授業概要		在宅における日常生活援助、ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的な転回方法を学ぶ。また、さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実際に結び付ける。(医療的ケア中心)							
学習者への期待 (準備学習含む)		在宅で生活される方も、病院で行われている医療的な治療(処置)を継続されている方が多く、病院では看護師が行っているケアを在宅では家族が行うこととなります。そのため、在宅では療養生活が継続できるかどうかの鍵は家族にあるといえます。そこで、在宅看護では療養者だけでなく、家族も生活を営んでいる生活者であるという視点をもち学んでほしい。							
回数	単元		授業内容				授業方法		
1	1. 医療的ケアの援助技術 1) 薬物療法 2) がん外来化学療法		(1) 医療ケアの原理原則 (2) 在宅における薬物療法の意義と目的など (3) がん外来化学療法の目的と対象の特徴 (4) 疼痛管理				講義		
2	2. 医療的ケアの援助技術 1) 在宅経管栄養法 2) 在宅中心静脈栄養法		(1) 経鼻経管栄養法・胃ろう共通の合併症 (2) 生活の工夫 (3) 在宅中心静脈栄養法を用いる療養者への在宅看護				講義		
3			(4) モデル人形を使用して経管栄養の実際				講義 DVD/演習		
4	3. 医療的ケアの援助技術 1) 呼吸に関する援助技術		(1) 排痰ケア (2) 気管カニューレ (3) 在宅酸素療法 (HOT)				講義/DVD		
5			(4) 在宅人工呼吸法 (HMV) (5) 非侵襲的陽圧換気療法 (5) 気管切開下間欠的陽圧換気療法				講義/DVD		
6	4. 医療的ケアの援助技術 1) 排泄に関する援助技術		(1) 排尿ケア (2) 膀胱留置カテーテル (3) ストーマ (4) 在宅CAPD				講義/DVD		
7	5. 医療的ケアの援助技術 1) その他		(1) インスリン自己注射管理 (2) 褥瘡管理 (3) 足病変のケア				講義/DVD		
8	単位認定試験・まとめ						試験		
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅療養を支える技術							
参考文献		新体系看護全書 系統看護学講座		統合分野	在宅看護論 在宅看護論		メヂカルフレンド社 医学書院		
備考									

領域	統合分野			科目	在宅看護援助論Ⅲ		担当	稲邊照子 伊藤明美		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
2年次	後期	1単位	15時間	8回	講義・演習	単位認定試験	70%	レポート	30%	
到達目標		1. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討できる。 2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。 3. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。								
授業概要		1. さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付けることができる。2. 様々な事例を通して在宅看護過程の展開について学ぶ。3. 看護過程の展開時には社会資源の活用について、多職種との連携、看護師の果たす役割について、講義、グループワークを通して学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		1. 在宅看護は、対象者と家族の尊厳ある生活を支える個別ケアである。プライバシーを守ることや、あらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断など看護師により高い資質が求められる。あらゆる看護領域の既習・知識・技術が基本となるため、振り返りを行ったうえで臨んでほしい。								
回数	単元		授業内容				授業方法			
1	1. 訪問看護サービスの展開		1) 訪問看護における看護過程の特徴 2) 訪問看護過程の実際				講義			
2	2. 対象に応じた在宅看護 (事例) ①②		1) 老々介護であるパーキンソン病療養者：ADLの低下・再発予防 ・ADLの低下・再発予防の観点から、社会資源を含めた支援を検討 2) 誤嚥性肺炎を生じた超高齢者：急性期 ・急性期の症状への対応の観点から、必要なアセスメントを含めた支援を検討				講義 グループワーク			
3	3. 対象に応じた在宅看護 (事例) ③④		1) インスリン自己注射を開始する糖尿病療養者：慢性期 ・慢性期の症状や合併症への対応、災害対策や社会資源を含めて必要な支援を検討 2) 脳梗塞後遺症で高次機能障害のある療養者：回復期 ・回復期の在宅療養への移行について社会資源を含めた支援を検討				講義 グループワーク			
4	4. 対象に応じた在宅看護 (事例) ⑤⑥		1) 壮年期のALSの療養者：難病 ・難病療養者と園家族へ、社会資源を含めた必要な支援を検討 2) 日中独居の認知症療養者：認知症 ・認知症療養者と園家族へ、必要な支援を検討				講義 グループワーク			
5	5. 事例を用いた看護過程演習		1) 情報整理とアセスメント ・事例の情報を系統的に整理する ・療養者および家族の在宅療養生活上の看護問題をアセスメントする				グループワーク			
6			2) 看護問題の抽出、看護目標の設定 ・療養者および家族のニーズ、状況をふまえ、抽出した看護問題の解決・軽減のための看護上の方針・目標の明確化 3) 在宅看護計画の立案 ・設定した在宅看護の方針・目標に応じた支援計画を立案する				グループワーク			
7			4) グループ毎に発表し、考察・評価を行う				発表会			
8	単位認定試験・まとめ									
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 在宅療養を支える技術								
参考文献		新体系看護全書 系統看護学講座			統合分野 在宅看護論 在宅看護論		メヂカルフレンド社 医学書院			
備考										